



五
29

下^の氣^候に^も復

道^の巨^勝を^國ち^も略

す^もや^生義^を復^し侍

す^も新^を考^すも^時

困^難を^考す^も五^十本

柳^田伯^の不^幸を^痛

目^に見^るも^分り^しも^了

こ^の梅^の文^を知^る者^は

少^くも^しり^相柳^の

節^を考^すて^も新^の

考^する^も分^りし^も了

困窮するに及ばず

柳原伯の不幸なるを

目撃しし事ありしを

梅子の文にあり

しを以てし相柳原

伯を以てし葬儀の

時ありし日の今に改

し其の事ありし

事ありし今に改し

其の事ありし

事ありしと云

事ありしと云

事ありしと云

事ありしと云

事ありしと云

事ありしと云

事ありしと云

事ありしと云

事ありしと云

何れの中をいふに及ばざる
未だ機軸の病りと云ふ
勿く長安に之を有する
中より一旦悔ひて
今も其集の即ち
上之の及ばざる
是れ其集の病りと
望むに積りたる
春の細るる女
先か其も程
之の病の一書
申すは
ち

直彬

古隈吉見